

# V I A J E

junio 11, 2018  
土井先生の活動日記  
Honduras Vol.15

## 病院にかかる・・・そこで土井先生は見た！

みなさんこんにちは。こっちは常に夏なので、全然季節感がありませんが、厚岸にも夏らしい暖かさがやってきた頃でしょうか。お陰様でこちらの活動は順調です。算数の授業支援はもとより、ラジオ体操を教えたり、日本の歌を歌ったり、英語の授業で発音のアシスタントをしたり、先生たち向けの研修会を開いたりと一対自分は何の先生だったかと思うほど順調です。ただこの前日本のダンスを教えることがしたいと言われ・・・土井先生にはとにかくダンスのセンスがない・・・そこで同じ Cholteca にいる妹分の隊員にお願いして、5年生の子どもたち9名と「恋するフォーチュンクッキー」の練習をすることに・・・当日はその妹分の隊員と子ども達で踊りました。土井先生は踊っただけでなく、踊らされておりました（笑）

さて、「恋チュン」に真剣になりすぎたのか、その日の夜から熱と下痢に悩まされ、JICA のコーディネーターと相談した結果、翌々日病院へ行くことに。そこでみんなは思うはず。「ホンジュラスの病院って大丈夫なの？」と。結論から言うと、そこは大丈夫でした。なぜなら Cholteca にある病院で一番きれいな、私立病院だったから。行ったその日に問診を受けた後、血液検査、尿検査、検便、点滴と全部詰め込んで、更に検査結果が帰るまでに出るという超特急な待遇。外国人だから急いでくれたのかなあ。日本では考えられない VIP 待遇でした。それもそのはず、ここは私立病院。日本だとどこの病院でも治療費に大きな差異はないけど、ここホンジュラスでは公立の病院か私立の病院かで治療費が全然違う。一通り治療を受けたあと、迎えのスーパーに入っている薬局へ。処方箋（手書きだった）にある薬を担当の人が棚から持ってきて、ハイ会計します。

さ、この VIP 待遇してもらった土井先生の治療費&薬代はいくらでしょう・・・ダダダン・・・約 1,700 レンピーラ（日本円でおおよそ 8,500 円）でした。この国で日本人の僕は保険証を持ってないので、10 割負担ってことを考えると、恐らく金額的には日本とほぼ同じ。そしてホンジュラスの経済事情を考慮すると、まず多くの人の給与が日本人平均の半分或いは 1/3 またはそれ以下。ざっくり言うと給料は月 40,000 円くらいなのに、上記のような治療を私立の病院で受けるだけでその 1/4 近くを持って行かれる。かりに月 80,000 円もらっていたとしてもウェイトは大きい。

結局このきれいな病院で日本と変わらない治療を受けられる人は非常に限定的ということになります。土井先生の都合だけで言えば、日本と変わらないレベルの医療サービスを受けられることは、いざという時に心強いです。一方でこの医療サービスを本当に必要な人は受けられているのだろうか。なかには経済的理由で受けたくても受けられない人もいるのではないだろうか、とも思うのです。経済的「格差」はラテンアメリカ社会では日本でのそれ以上の社会問題です。みなさんにはこの事情、どう映りますかねえ？  
追伸：土井先生は病気から解放され、快方に向かっています(^\_^)